

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501255		
法人名	有限会社ワームサポート		
事業所名	グループホームひだまりの家		
所在地	室蘭市御崎町2丁目10番19号		
自己評価作成日	平成26年3月12日	評価結果市町村受理日	平成26年4月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0173501255-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひだまりの家の名前が示すように、ホームは一日中温かな陽の光を受けるロケーションにあり、また室蘭港、白鳥大橋、工場群が一望できる風光明媚な場所に位置しております。開設時より家庭の延長である「アットホームな雰囲気」をコンセプトに、基本理念にある「穏やかで安らぎのある暮らし。そして笑いのある暮らし」を職員スタッフが共通目標に日々入居者様の介護ケアに努めております。代表者は地元御崎町に在住、百数年という町内生え抜きで、町内会始め地域近隣住民との絆には強いものがあります。避難訓練、夏まつりなど、ホームの行事・イベントには近隣住民、町内会役員から積極的な応援協力を得ております。また、町会のお祭りや文化展にはホームの入居者が参加し、“地域密着型”を実践しております。その他、総合病院の看護学校の学生、介護福祉専門学校の生徒、介護福祉初任者研修の受講生の介護現場実習受け入れ先として支援に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10年目を迎える「グループホームひだまりの家」は、基本理念のひとつである「地域とともに、おだやかで安らぎのある暮らしの場を」とおり地域との交流を築き、その理念を実践している事業所である。事業所主催の夏まつりでは、地域住民が80名ほど参加し、屋台の焼き鳥の準備は婦人部が担当し、ダンス、ギター演奏と歌謡などの多彩なボランティアが利用者と一緒に楽しんでいる。代表者は、室蘭市のグループホーム連絡会の代表を務めており12か所のグループホーム入居状況をとりまとめ、市と地域包括支援センターに報告をしている。年2回は、市職員参加の総会があり、市からの要望や行政の指針等について情報共有をしている。昨年、市が取り組みを始めた介護中であることを表示するベスト着用について、当事業所に情報提供があり、総合病院の通院介助に役立っている。また、平成25年度は町内会長の協力を得て初めて小学校の体験学習を受け入れている。地域にある事業所の存在を知ってもらうことと同時に、認知症の啓蒙活動を今後も継続していく意向である。自分が生活してきた場所を見てみたい、自分の家の様子をみたいという利用者の思いを尊重し、車で出かけてその地域の人々と交流する機会もつづけている。食事は、週3日事業所の近隣の住民が職員として献立作成や買い物、調理を担当し、手作りの美味しい食事を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(2階海アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階海)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念「地域とともに、穏やで安らぎのある暮らしの場の提供を」の項目を重視し、地域との繋がりをモットーにしている。理念は見やすい場所に掲示し、パンフ等に記載、職員スタッフの名刺の裏側にも載せ、常に共有できるよう努めている。	理念は、1階の事務所、各ユニットのスタッフルーム及び廊下の職員紹介用のボードに掲示している。管理者の名刺の裏にも記載し、全員で共有し実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方との朝・昼・晩のあいさつの徹底、ホーム、町会の行事やイベントは相互に参加し、交流に努めている。「夏まつり」「避難訓練」などホームの行事には町会関係者、地域の方のお手伝い、協力を得ている。	開設10年目を迎え、地域との繋がりが深まって来ていることを実感している。事業所の裏庭で行った夏まつりでは、町内会からテントを借り設営の協力も得ている。町内の文化展には、利用者と職員手作りの作品を出品している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会や団体、市主催のセミナー、講演には代表・管理者・ケアマネが講師に招かれ勤めている。これら啓蒙・啓発活動には介護サービス事業所として協力体制を敷いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、年6回の運営推進会議を開催している。地域の代表・家族の代表・市職員・地域包括支援センター母恋の職員、及び、グループホームの役員・管理者・スタッフ代表が出席し、情報の共有に努めている。	会議の内容は、2か月ごとに発行している通信に記載し家族に報告している。案内は、出席予定の家族代表に送付し、家族の負担が大きくなるよう配慮している。活動報告や災害時の避難対策等について検討し、その内容をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市内12全グループホームの運営事業所が加盟する「室蘭市GH連絡会」を通じて、入退去状況、議事録の送付、各種研修会の報告、行政との連携等に努めている。	室蘭市が、昨年からはじめた「介助中」ベストを市内のグループホームで唯一活用している。市と協力関係を築き、通院先でトイレ介助をする時に市民から誤解を受けない取り組みを率先している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設以来「身体拘束防止対策」の取り組みにはホーム一丸となって取り組んでいる。身体拘束の基準を明確にし、スタッフ職員が理解できるよう伝達・説明・啓蒙に努めている。各種研修会に職員を派遣している。	介護支援専門員の更新研修での資料を参考にしながら日頃から話し合いをしている。また、新聞等で虐待の事件が報道されることがあれば随時、拘束について確認している。ここ2年間ほどは勉強会は開催していないが、日中玄関は施錠せずセンサーにて見守りをしている。	「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」のマニュアルを作成することを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待だけでなく、言葉による虐待についても力を入れ防止に取り組んでいる。職員・スタッフは何気ないつもりでも時と場合によっては相手を傷つけるものになる。互いに注意し合うように常日頃から心掛けている。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 海)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	役員・管理者・事務長等の幹部職員を中心に、成年後見制度などの講習セミナーに参加し見識を深めている。過去の入居者に「権利擁護制度」に該当するケースがあった。さらに研鑽を積み理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際は、不安や疑問がないように十分確認し、運営規定や重要項目などの説明を行い、納得していただくように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には毎回ご家族(代表)が参加している。その際相互の意見交換を行っている。エレベーター前に「苦情相談箱」を設置している。面会でご家族が来られた際は遠慮なく相談していただけるよう努めている。	運営推進会議や来訪時に家族の意見を把握している。家族からは、高齢や仕事のために通院介助が難しいので事業所で対応してほしいという意見が多く、その意見を尊重し、家族からは感謝の言葉が寄せられている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1～2回「会社全体会議」定期的「ユニットミーティング」必要に応じて「個別面談」などを通しコミュニケーションを図り、職員スタッフの意見を聞き入れるよう機会を作っている。	毎月ユニットミーティングを開催し、また日常的に申し送りなどの機会に職員の意見を聞いている。年1回代表者が個別面談を行い、職員の意見や提案を反映させている。職員は、その個性や能力を活かして夏まつりや敬老会などのイベントを担当している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員スタッフの出勤、欠勤、早退、遅刻等の勤務状況の把握に努めている。また仕事への取り組み、研修意欲など勤務考査を図ってやりがいのある職場環境作りに努めている。年末手当の支給の参考ともしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員スタッフのスキルアップには常日頃から取り組んでいる。また外部の各種研修セミナー、講習会、他施設(グループホーム)への実習、運営推進会議にはスタッフ交代で参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は「室蘭グループホーム連絡会」の会長を担い、業界の資質の向上に努めている。「西胆振GH広域連絡会」などの研修会や他施設実習参加を通して、意見交換や交流の場、その機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 海)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホームを見学していただき雰囲気や環境、ホームのケアの取り組みなどを実感していただいている。本人の希望聞き、不安を取り除き、思いをしっかり受け止めるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自由に何度でもホームを見学していただいている。ホームの雰囲気、職員スタッフの対応、他の入居者様の表情を見ていただき、ご家族の要望を十分に聞き、納得した上での入居成就に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、ご家族の思いや希望をしっかりと聞き、ホームとして「できること・できないこと」を十分に説明している。また、早急な入居を迫らないで納得した上で入居できるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	こちらからの一方的な介護ケアでなく、食事の際のテーブル拭き、朝夕のカーテンの開閉、洗濯後の衣類のたたみ・片付けなど、入居者一人ひとりの役割をもって、出来ることに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員スタッフはご家族の面会、また電話などあった際、何でも遠慮なく話が出来よう努めている。また随時、機会を設け入居者様のホームでの様子、健康を出来るだけ詳しく説明している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前より入居者様の、これまでの既歴、生活歴の情報を職員・スタッフ間で共有するよう努めている。面会訪問に来られたご家族、友人知人の方からも入居前の生活をお聞きし、馴染み関係づくりに努めている。	自分の生活してきた場所を見たい、自分の家の様子を見て来たいなどの希望を把握し、外出支援をしている。以前、住んでいた地域の昔なじみの人に会って話をすることもある。また、家族と一緒に墓参りや食事に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員スタッフが入居者皆さんの相性や性格を十分に把握し、入居者同士の中で孤立しないように注意を払っている。あくまでも押し付けない、さりげないサポートをめざしている。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 海)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時折、退居したご家族が来訪することがある。狭い地域なのでご家族と街で遭遇することが多い。幹部職員、スタッフにかかわらずその時は互いに情報を交換し、朝礼の際などに報告している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の言動から入居者の思いや要望、望んでいることを察知できるよう努めている。またそれをくみ取って、日々のケアに反映するよう、スタッフ間の意思疎通を図っている。	入居時情報記録やセンター方式のアセスメントシートを活用して本人の思いや意向を把握している。職員は、細やかな観察を行い、申送り等で気づきを共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者ひとり一人の、これまでの歩んできた人生、生活歴、生活環境の情報を、職員スタッフ間で共有し、さらに新たに知り得たことはミーティング等で伝達・報告を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の全体朝礼、ユニットミーティング、ローテーション引き継ぎ確認・連絡伝達ノートなどで、職員スタッフに入居者のひとり一人の体調や気分などの報告・伝達・指示を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者個々の言動、表情を見極める、ご家族からの意見や要望を聞く、関係医療機関からの情報の提供を得る、こうしたことにより状態の把握に努め、職員スタッフ間で情報を共有し実践している。	利用開始時は、1週間ほどで介護計画を作成している。どのような生活をしていきたいか等を本人や家族に聞き取り、医療職からの指示や職員の意見を基に3か月ごとに見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ひとり一人の食事・水分摂取量・排泄・バイタル・体温は介護日誌に記載記録し、スタッフは勤務開始時必ずチェックしている。体調に変化等があった場合連絡ノートを活用し、共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携歯科医院からの歯科衛生士による口腔ケア指導を行っている。理容の出張サービスや、美容のスタッフによる引率など、できるだけ個々のニーズに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	春の火災避難訓練には地域の近隣住民、町会役員が参加し協力していただいている。施設のイベント行事、町会の行事には、それぞれ互いに参加し「地域密着」として住民と交流を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医・総合病院等の医療機関にはスタッフが同行して受診している。体調不良時には夜間、日曜祭日であっても、協力医が往診してくれている。	全員が入居前からのかかりつけ医を継続している。かかりつけ医がない場合等は、協力医療機関を利用できるよう支援している。家族と職員と一緒に受診の介助をすることもあり、通院報告書や連絡ノートでその内容を共有している。	

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 海)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が全入居者の健康チェックを行っている。体調の変化や受診時の状況など看護師に報告し、相談しながら個々の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合、病院より情報を得て、ご家族と連携を密にし病状、治療の進行状況、また退院の目的について聞く。できるだけ早期に退院できるよう、受け入れ態勢も含め話し合いを行う。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に係わる指針」を作成し、同意書をご家族との間で取り交わしている。また、その場合の方法を「ターミナルケアに関するマニュアル」を添付して、ご家族と間で確認を行っている。	利用開始時に指針を説明し、同意を得ている。口から食事を摂ることが難しくなったり、常時医療処置が必要となった時は、家族が入院を希望することが多いので心身の状態に応じて随時、担当医、家族、事業所で話し合いをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	室蘭市GH連絡会主催の普通救命講習を定期的(年2回)に受講し、職員スタッフの大半が修了している。緊急マニュアルをユニットごとに置き、応急手当でや心肺蘇生法など学び研鑽している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動火災探知機・スプリンクラー装置・自動通報装置などの設備については保守管理者が定期的に点検している。毎年春に近隣住民の参加の災避難訓練を行い、災害対策に取り組んでいる。	春と秋の年2回、火災を想定した避難訓練を実施している。大停電を経験したのでストーブやガスコンロ、レトルト食品などを備蓄している。	火災以外の地震等の災害対策の取り組みを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常より「個人の尊厳」の尊重に努めている。命令口調、子ども扱いなどないよう「言葉がけ」に注意を払い、職員スタッフに首尾徹底している。特に排泄に関してはプライバシーの順守を徹底。	理念の「一人ひとり誇りを持ち尊厳のある暮らしの場を」を常に念頭におき、接遇や個人情報の取り扱いについて話し合い利用者のプライバシーを損なわない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症が進行しているため自己の意思を発せない方がいる。それを見抜き、その表情から思いや意思をくみ取っていく。命令調でなく同調・同意した方向で納得してもらうよう努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人の時間ペースというものがあるので、それを理解するよう努めている。そのペースに合わせたケアに努め、朝礼・ミーティング等で確認し、指示・伝達・申し送りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	通院・受診などの外出時の際は、本人の希望を聞き、身だしなみをさりげなく伝えている。特に女性にはオシャレこころを、また、男性にも無精ひげなどないようケアしている。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 海)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢者の嗜好にあった献立作りの考慮している。食事の時間が楽しいよう工夫を凝らし、コミュニケーションを大切にしている。配膳の準備や後片付けなどさりげなく手伝ってもらえるよう努めている。	利用者の希望や旬の食材を使い、行事や季節に応じた献立をホーム長と調理担当者が作り、様々な工夫を凝らし利用者に喜ばれる食事を提供している。利用者は料理の下ごしらえや味付けに参加し職員と一緒に楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1000CC以上の水分摂取を目標に、入居者の体調を見ながら実践、また食事・水分摂取量を記録している。誤嚥の防止、咀嚼状況を加味した献立・食事作りに努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	「口腔ケア」に関しては日頃よりホーム全体で取り組んでいる。定期的に歯科衛生士が来訪し指導にあたっている。押しつけでなく、スタッフも一緒になって「にこにこ体操」や歯磨きをやっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関して職員スタッフには共有し「個人の尊厳」にかかわる重要な課題として首尾徹底させている。できるだけオムツ使用は最終的段階であると認識している。ひとり一人の排泄パターンの把握に努めている。	「トイレで排泄する」を基本とし、個別の排泄パターンを把握しトイレに誘導している。誘導時は「トイレ」という言葉を使わずさりげなく促している。布パンツとパットを組み合わせオムツ使用を最小限にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々のミーティングの際、排泄状態を確認し、水分補給や乳製品摂取なども合わせて確認している。体操や体を動かすことで快便になるよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的に入居者の好みや、その日の体調に合わせて入浴を促している。入浴を楽しみにしている入居者も多く、入浴中はコミュニケーションをとり明るい雰囲気の中で入浴を楽しんでいる。	週2回以上を基本とし午後の時間帯で実施しているが、希望があれば毎日入浴できる。入浴剤を季節ごとに変えたり、ゆずやレモンを入れて入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決まってない。本人の自由意志に任せられている。実際は夕食後、洗面等が終わると居室に戻り就寝する人が大半である。寝付かれない人は日中体を動かすよう促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の「服薬一覧表」を作成し、各ユニットのスタッフルームに掲示している。スタッフには用途・用法・量・効用の徹底を図っている。薬剤名・効用を明記し知識の習得に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	まずその人の歩んだ人生、生活歴の把握に努め、趣向、嗜好、趣味など知って、その共通した話題作りから始めている。話や実技などから、出来るだけその特技を褒めるようにしている。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 海)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの裏の敷地に短いが遊歩道が設置されているので、天気の良い日は外に出て陽を浴びている。また天気がよい日の午後には、状況を見計らってドライブに行き、ソフトクリームなど食べて来る。	日常的な外出は裏の敷地の遊歩道を散歩したり、ドライブを兼ねて利用者の希望する買い物やアイスクリームを食べに行くなど出かける機会をつくっている。その時々天候や受診状況などを調整し、少人数で外出している。冬期間は家族の協力を得て外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持することはない。入居間もなくお金を持っていないと不安だという方には、家族の確認の上、ごく小額の現金を所持している。実際には使うことはない。紛失しないようスタッフが注意を払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎは素早く対応している。また、本人からの希望があれば、ご家族や知人に電話できるよう対応している。しかし、実際のところあまり実例はない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下、階段の壁面、玄関には、行事の写真やパネル、季節感を感じさせる飾り付け、装飾など工夫を凝らしている。トイレなど独特の目印をつけ混乱を防いだ工夫に努めている。	リビングの広い窓からは四季折々の風景が眺望できる。職員のアイデアを取り入れた独創的な利用者の作品などが飾られ温かみのある落ち着いた雰囲気な共用空間となっている。トイレや浴室、洗面所などはバリアフリー構造で、車いすで利用できる。階段にあった喫煙場所は撤去し事業所内禁煙を実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端側の窓の下にソファを設け、一人の空間をつくり寛いでもらっている。リビングでのテーブルでの座り位置についてはかなり神経を払っている。入居者同士スムーズに交流できるよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはこれまでご自宅での暮らしに使っていた、馴染みのものを持ってきてもらっている。それを側に置くことで、またそれを使用することで、これまでと違和感がないよう努めている。	ベッドは備え付けられているが、利用者の好みで布団にしたり、身体機能に対応できるレンタル介護ベッドなども使用できる。馴染みの家具、鉢植え、思い出の写真などを飾り寛げる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームでの安全確保には十分注意を払っている。廊下、手摺り、階段、エレベーター、通常トイレ、車イス使用トイレなど歩行が困難になっても対応できるよう整備されている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501255		
法人名	有限会社ワームサポート		
事業所名	グループホームひだまりの家		
所在地	室蘭市御崎町2丁目10番19号		
自己評価作成日	平成26年3月12日	評価結果市町村受理日	平成26年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「2階 海ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0173501255-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(3階空アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階 空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域とともに、穏やで安らぎのある暮らしの場を」という理念を掲げ、地域交流を深めている。理念はホーム内の見やすい場所に掲示し、職員の名刺の裏側にも載せ、職員間で理念の共有の実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のお祭りや文化展、小学校の生徒の体験学習、ボランティアの慰問、実習生受け入れなど、常に外部との交流が出来るように取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会の婦人部の方との認知症についての談話や市内の小学校の体験学習、高校、看護学校の実習受け入れなど、認知症の人の理解や関わり方など地域に向けて発している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議は隔月で行なっており、町会代表、家族代表市職員や地域包括支援センターの職員との情報交換、自己評価、外部評価の結果、ホームでの取り組みなどを報告し、ご家族や地域の方の意見や要望を聞きサービス向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	室蘭市GH連絡会を經由し、入退居情報の報告を行なうと共に運営推進会議に出席してもらい意見交換を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニットに身体拘束マニュアルを設置し、身体拘束となり得る行為について常に話し合い確認しあっている。玄関は自動ドアになっていて自由に出入りできるが、夜間は防犯のため施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学ぶ機会がある。言葉や行動が虐待に繋がれることを意識しスタッフ間で常に話し合い虐待防止に努めている。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階 空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に制度を利用したケースがあり学ぶ機会があった。今後も理解を深め必要に応じ活用できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は代表者、事務長、管理者が同席して疑問点や不安がないかなどを十分確認し重要項目などの説明を行ない、理解し納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の方にも出席して頂き意見交換している。重要事項説明書に苦情相談窓口を記載し、玄関に苦情意見箱を設置している。ご家族が面会に来られた時は意見や相談など気軽に話して頂けるように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議など日常のコミュニケーションにより職員スタッフの意見を聞き入れる機会を作っている。代表者は就業年数に応じてスタッフと意見交換を図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員スタッフの出勤、欠勤、早退、遅刻等の精勤状況や日常の仕事への取り組み、研修参加など勤務考査を図っており出来る限りやりがいのある職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員スタッフを把握し、スキルアップには常日頃から取り組んでいる。また外部の各種の研修、実習、運営推進会議には交代で参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西胆振GH広域連絡会や室蘭GH連絡会の研修会や他施設への実習を通じ意見交換や交流する機会があり、自己啓発、サービス向上に繋げている。市内のグループホームのケアマネと定期的に交流を持ち、情報交換や意見交換をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階 空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り見学して頂きホームの雰囲気や取り組みを実感して頂き、ご本人の不安や希望などを聴き、その思いを受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学を自由にして頂き、ホームの雰囲気や職員の対応、入居者の表情などを見ていただき、ご家族の要望や困っていることを十分聞き納得した上で入居して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の思いや希望を傾聴し、ホームの役割や「できること、できないこと」を説明し、他の施設も見学されることを勧め納得して入居できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを一緒に行ない、出来たことを一緒に喜び日々の喜怒哀楽を共にして解り合える関係を築いている。「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えることで自信や役割ができ意欲向上につながっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた時は、ご本人との思い出話をしながら何がご本人にとってベストなのかを一緒に考えて実践に繋げている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の様子を見に行ったり、行きつけの八百屋を訪問したり、本人の生活習慣や馴染みの人との関係が途切れないように支援している。昔馴染みの友人や知人などの面会も多く、来やすい雰囲気作りにも配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の相性を把握し、一方的に介入するのではなく、スタッフが常に見守り、その時の状況や感情を見極め、その人の思いを尊重し孤立ないように努めている。余暇活動やゲーム、個々の力に合わせた家事などスタッフ入居者が力を合わせてできることを一緒に行っている。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階 空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により退居となった方のお見舞いや年賀状交換、退居後に亡くなられた方の葬儀参列など今までの関係性を大切にいつでも相談や支援に応じられるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情、行動からその時の思いや不安を察するようにしている。気づきなどは毎日のミーティングで話し合い、ご本人の希望はできる限り実現できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の関係機関からサービス利用経過、ご家族から生活歴や身体状況などの情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録の他に、全体朝礼やユニットミーティングで個々のその日の気分や体調を確認したり、気づいたことは連絡ノートに記入し、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の言動や表情、ご家族からの意見や要望を聞くとともに協力医療機関の指示や助言をもとに現状把握に努めスタッフと情報を共有しながら作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に毎日の食事量、水分摂取量、排泄状況などを記入。体調変化や生活の中での気づきは連絡ノートを活用しスタッフ間の情報交換、共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科衛生士による口腔ケア指導や介護保険外の福祉用具貸与など、個々のニーズに合わせて、ホームでの生活がより良いものになるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事などに町会の方にも参加して頂き交流を深めている。また、消防署立ち合いでの避難訓練は町会役員やご近所の協力を得ながら地域一体となり安全に生活ができるよう取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけの医療機関にはスタッフが同行し受診。体調不良時は協力医が、時間外でも往診してくれている。病状により総合病院へ紹介してもらうなど適切な医療を受けられるように支援している。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階 空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1/W看護師が全入居者の健康チェックを行なっている。体調の変化や受診時の状況などを看護師に報告して相談しながら個々の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合、病院に出向き、ご家族や病院関係者との連絡を密に行ない治療進行や退院の目途についてなどを聞き、できるだけ早期に退院できるように話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、同意書をご家族との間で取り交わしている。またその場合の方法を「ターミナルケアに関するマニュアル」を添付してご家族との間で確認を行なっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	室蘭市GH連絡会主催の救急救命講習を定期的に受講し全職員が講習を修了している。また救急マニュアルをユニットごとに置き応急手当や心肺蘇生法などを学び万が一のために備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動火災報知機、スプリクラーを設置。毎日、消防設備に異常がないか点検している。また、定期的に近隣の住民の協力のもと避難訓練を行ない、近隣の住宅を避難場所として提供していただくなど地域の協力体制を築いている。あらゆる災害を想定し生活備蓄品を確保している。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どんな時も子ども扱いや命令的な言葉は使わないように徹底している。「急がせない。驚かせない。恥ずかしいめに合わせない」を合言葉に自尊心を傷つけない対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の症状として思いをうまく表出できない事を理解し表情や仕草から思いを読みとったり、コミュニケーションを十分とる事、答えを急がせるのではなく待つ姿勢を忘れずに自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースに合わせ業務優先にならぬように毎日のミーティングで確認しあっている。気分や体調に合わせ希望に沿って個別に外出し外食したりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節やその日の気温に適した服と一緒に選んだり外出やイベントには好みの色や形に配慮した装いをしている。毎月、出張理髪店による散髪もできるが希望によっては行きつけの理美容院に同行するなど身だしなみやおしゃれが楽しめるように配慮している。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階 空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとり一人のできる力を活かしテーブル拭きや片付け野菜の下ごしらえなど一緒に楽しく行なっている。出前や外食、誕生日や季節毎の催しに合わせた献立など食事を楽しみにして頂けるように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を記録し栄養バランスに気をつけている。水分は一日食事以外に1000cc摂れるように目指し個々の嚥下、咀嚼力に合わせて食事形態も工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じ協力歯科医の歯科衛生士が口腔ケア指導を行なってくれている。毎日、口腔体操を実施し食後は歯磨きや義歯洗浄を行ない、自分のできる部分は自分で行なってもらいが不十分な部分はスタッフが介助して口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄できるように定期的に声を掛け誘導を行なっている。リハパンやパット使用に関して何度もスタッフ間で話し合い極力使用しないようにしている。たとえリハパンになってもトイレでも排泄できるように心がけ失敗や苦痛が最小限になるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、食物繊維や乳製品を多く摂れるように工夫する。無理のないように適度な運動や散歩を促す。毎日排便状況を記録し場合によっては看護師や協力医に相談するなど便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴時間は決まっているが、毎日入浴したい入居者には希望に応じ入浴していただいている。入浴は一对一になれる良い機会とし、ゆったりとした気持ちで対応してリラックスできるように心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やリズムを把握しお昼寝をして頂いたり、自由にソファで寛いだり安心して休息できるように支援している。夜間眠れない方には話をゆっくり聞いたり温かい飲み物を勧めたり安心して眠れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に一週間分の薬をケースに入れ、ふたに薬剤名、効用を記載、スタッフルームに全員の服薬内容表を貼り、全スタッフが用法や用量、効用が解るようにしている。薬が変更となったときは連絡ノートに記載し確認漏れがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来ること、好きな事、嫌なこと、苦手なことなどの把握に努め無理のないように出来る力に合わせて過ごせるように支援している。出来たことは一緒に喜び感謝の気持ちを表すことで自信や生活意欲向上に繋げている。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階 空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや外食など希望に添えるように努めている。お天気にあわせ外出して気分転換を図ったり、ご家族との外出も自由にして頂いている。ホーム敷地内の遊歩道は車椅子でも自由に移動でき、白鳥大橋や工場群が全望でき、夏の花火大会には地域の方と一緒に観覧したり交流の場となっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自ら金銭を扱うことはないが希望される場合はご家族と相談の上紛失してしまうことも考えられることを説明し、ごく少額を所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話操作できる入居者は殆どいないが希望に応じ電話をかけてあげたり手紙や年賀状のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光に対しロールカーテンを使用。24時間換気設備、自動暖房など快適に暮らせるように設備している。また、冬には湿度にも十分配慮し加湿器などを使用して風邪予防対策を行なっている。玄関やリビング、廊下には写真パネルや季節に応じた装飾など季節感を味わっていただけるように工夫している。トイレや自分の居室が解るように目印をつけ混乱を防ぐなど居心地の良い環境作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファを置き休憩スペースが設けられており、気の合う入居者同士が会話したり、居眠りをしたり思い思いに過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に居室にはご本人が使い慣れた馴染みのある物を持ってきて頂けるようお願いして居心地の良い場所となるようにしている。スタッフがプレゼントしたぬいぐるみを就寝時に傍に置き眠るなど安心していただけるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺、エレベーター、車いす対応トイレなど安全に暮らせるように環境を整備して生活の中で失敗がないように工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ひだまりの家

作成日：平成 26年 4月 8日

市町村受理日：平成 26年 4月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束については日頃から話し合い確認して拘束のないケアを実践しているが、現在のマニュアルに不十分な点がある。	介護保険指定基準において禁止となる具体的な行為を正確に認識し身体拘束のないケアに取り組む。	「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」をマニュアルに表記。	1か月
2	35	火災を想定した訓練は毎年行ない地域との協力体制も確立しているが、地震等の避難訓練を行っていない。	あらゆる災害に対し、迅速かつ適切な対応をする。	地震等を想定した災害のイメージトレーニングや職場内の訓練などを実施し防災体制の一層の充実強化を図る。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。